

「第2次坂出市健康増進計画」取組状況

No.	分野	大目標	小目標	担当部署	関連事業	平成30年度の実績(見込)	事業の評価	評価理由	2019年度の取り組み
49	7 生活習慣病 (がん)	がんの予防と早期発見・早期治療に努めよう	① がんに関する正しい知識を身につける	けんこう課	・健康教育 ・がん検診 ・人間ドック	・医師のお話において、大腸がんについての講話を1回実施し、12名の参加があった。 ・がん検診:6月～2月実施。胃 1,321人、大腸 4,731人、肺 5,917人、乳 1,591人、子宮頸 1,586人、前立腺 1,650人受診。 ・人間ドック:222名 人間ドック助成は3年目となり、対象者のうち2年以上助成対象となったかたが5割、新規のかたが5割となっている。	継続	・医師による講話については参加者が少なく、費用対効果を考慮して実施していく必要がある。 ・がん検診は、集団と個別検診で実施し、受診しやすい体制づくりを行っている。 ・人間ドックをより新規のかたにも多く利用してもらい、市民の疾病の早期発見および早期治療のため実施する。	・個別がん検診は、6月から11月を通じて実施する。 ・人間ドックの定員数を275名として実施。
50				学校教育課	平成28年度より、小学校3年と6年・中学校3年生において「病気の予防」という単元の中で、保健学習を実施している。	各学校で、年間計画に沿って1単位時間保健学習として実施している。県から配布された資料、DVDを活用して実施している。	継続	すべての学校において、年間計画に沿ってがん教育が実施されている。今後もがんに関する正しい知識を、必要な時期に必要なことをきちんと理解させることが重要である。	継続実施
51			② がん検診を定期的に受ける	けんこう課	・健康教育 ・各種検(健)診の周知活動 ・がん検診 ・人間ドック	・医師のお話において、大腸がんについての講話を1回実施し、12名の参加があった。 ・各地区における健康教育において、がん検診受診の必要性や実施の周知を行う。 ・がん検診:6月～2月実施。胃 1,321人、大腸 4,731人、肺 5,917人、乳 1,591人、子宮頸 1,586人、前立腺 1,650人受診。 ・人間ドック:222名 人間ドック助成は3年目となり、対象者のうち2年以上助成対象となったかたが5割、新規のかたが5割となっている。	継続	<再掲(No.49)>	<再掲(No.49)>
52				学校教育課	小学校3年、6年、中学校3年で保健学習の中で指導している。	「病気の予防」の視点において、早期発見と早期治療の必要性について指導している。そのための「定期健診」は必要であることを伝えている。	継続	保健学習「病気の予防」の中で指導している。	継続実施
53			③ 生活習慣を改善する	けんこう課	・健康教育 ・がん検診 ・人間ドック ・肝炎ウイルス検診	・医師のお話において、大腸がんについての講話を1回実施し、12名の参加があった。 ・がん検診:6月～2月実施。胃 1,321人、大腸 4,731人、肺 5,917人、乳 1,591人、子宮頸 1,586人、前立腺 1,650人受診。 ・人間ドック:222名 人間ドック助成は3年目となり、対象者のうち2年以上助成対象となったかたが5割、新規のかたが5割となっている。 ・肝炎ウイルス検診:6月～8月、11月実施。143人受診。	継続	<再掲(No.49)>	・個別がん検診および肝炎ウイルス検診は、6月から11月を通じて実施する。 ・人間ドックの定員数を275名として実施。
54				学校教育課	生活習慣の改善については、定期的な「チェック表」で実施している。	子どもたち一人一人に生活習慣を見つめさせ、改善を図ることは、学校と家庭が連携する形で実施している。特に、食生活の見直し、生活リズムを整えることについては、定期的に調査を行い、意識改革を進めている。	拡充	すべての学校において常に、生活習慣をチェックし、病気にかからない健康な体づくりに向けた取組が実施されている。	すべての学校で実施。